

31 腎移植センター



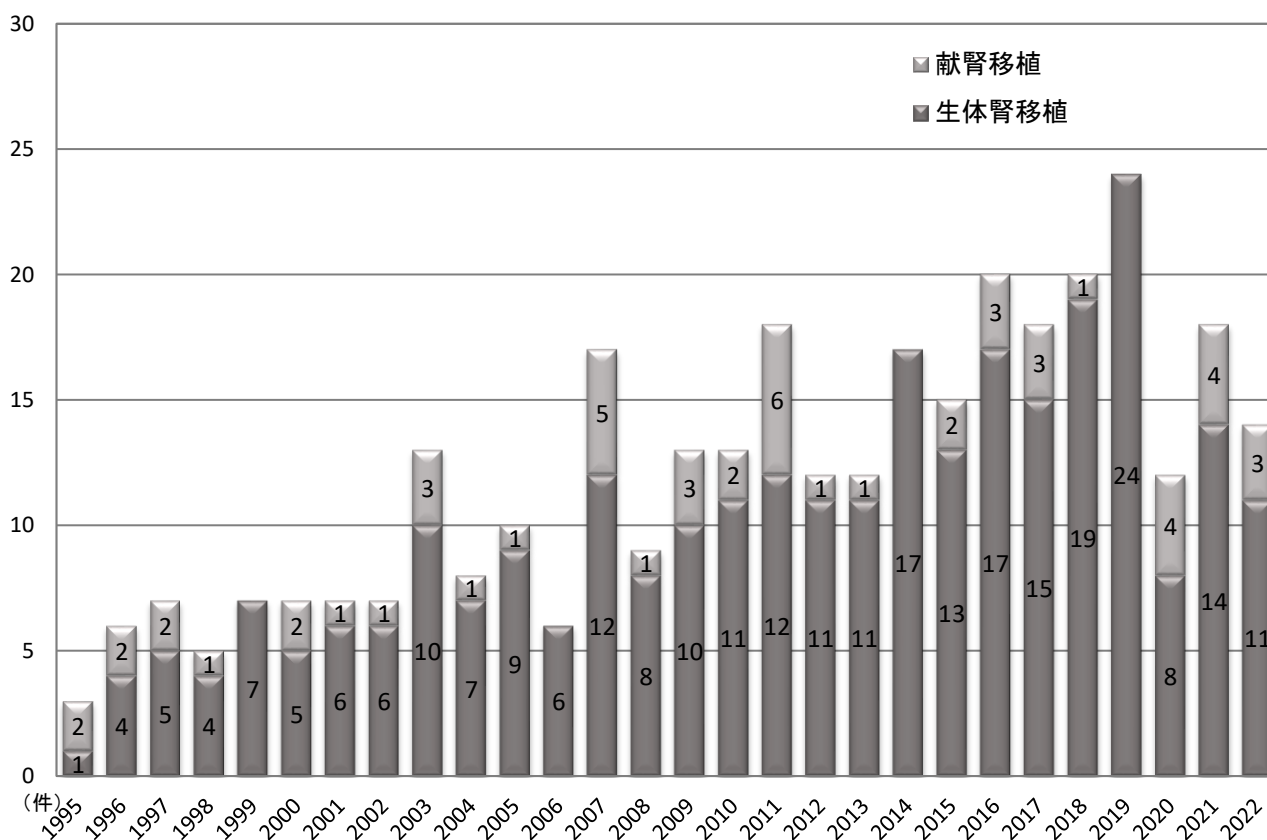
兵庫医科大学病院における腎不全の治療は腎臓移植を腎移植センターが、透析治療を血液浄化センターが担当している。腎移植は現在のところ腎不全に対する唯一の根本的治療法であり、当院では1983年(昭和58年)8月の第1例目以後、現在まで446例の腎移植を実施している。腎移植後の成績は、近年向上しており、2000年以降の移植腎の生着率は5年で93%、10年で84%、患者生存率は10年で97%と良好である。20年以上の長期生着患者も47名と増加し、最長生着患者は移植後40年目を迎えている。

腎移植センターには移植泌尿器科医11名(日本移植学会・日本臨床腎移植学会の腎移植認定医4名を含む)、腎臓内科医6名(腎移植認定医1名を含む)、小児科医3名、レシピエントコーディネーター3名が所属し、外来での腎移植相談および移植準備、移植手術、移植後の通院治療を行っている。また、腎移植治療を推進するため西宮、神戸、姫路、尼崎、淡路等、県内各所で市民公開講座などの啓蒙活動も行っている。

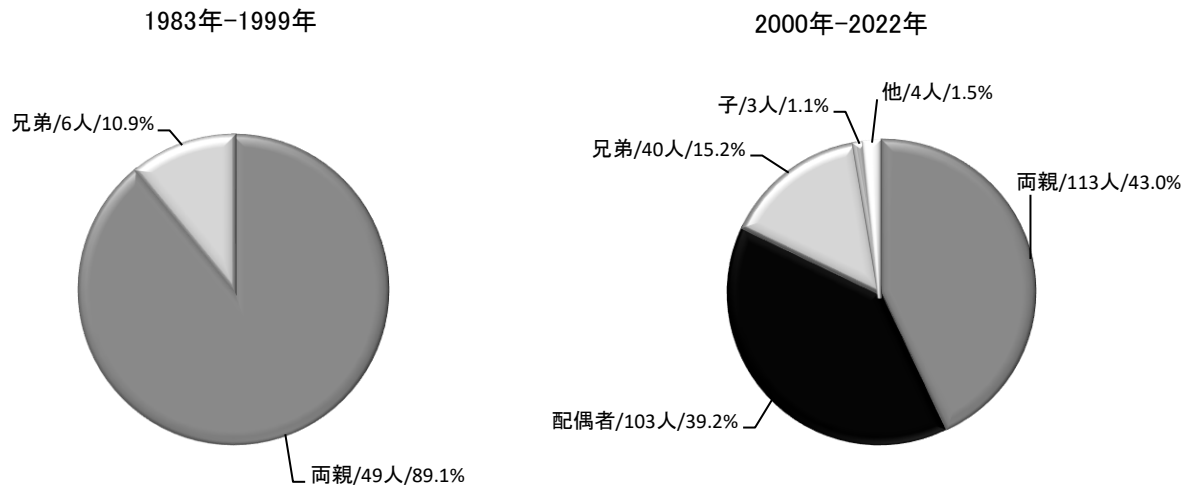
腎移植治療の特徴として臓器移植という特殊性があり、治療結果がすぐさま生命予後に影響する事、免疫抑制の影響で易感染性が高い事、移植成績の向上により長期生着患者が増加し20年以上診療を続ける患者が多い事、などが挙げられる。これらの特性をふまえ、最良の治療成績をあげるため腎移植センターでは地道で丁寧な診療を心がけ、センターに所属する医療スタッフのチームワークはもちろんのこと、兵庫医科大学病院の各診療科との緊密な連携を保って診療にあたっている。

また、日本全体の動向を見ると1997年(平成9年)に臓器移植法の施行、2010年(平成22年)に臓器移植法の改正と日本なりの法整備が行われた。その効果が徐々にあらわれ最近では脳死下の腎臓提供が増加し、2015年以後は年間100~180件の脳死ドナーからの献腎移植が実施されている。脳死下の臓器提供が増加して心臓、肺、肝臓、膵臓の移植が以前よりかなり増加したが、まだ深刻なドナー不足が続いており、臓器移植でしか助からない多くの患者さんが日本中で死と向き合いながら待機している状態である。腎移植の待機患者さんは13,000名で、そのうち移植をうけられた人は昨年で125名しかおらず、待機中に死亡している方も少なくない。今後も日本臓器移植ネットワーク・厚労省だけでなく文科省や各自治体が連携し、小中高等学校、大学での教育現場で臓器提供と移植に関する正しい情報を子供たち、若い世代に伝え、各個人が考えられるような環境作りをすることが重要と考えられている。2019年以後は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、世界的に臓器移植が減少し、特に日本ではその傾向が顕著であったが、2021年、2022年には件数減少の回復傾向がみられている。

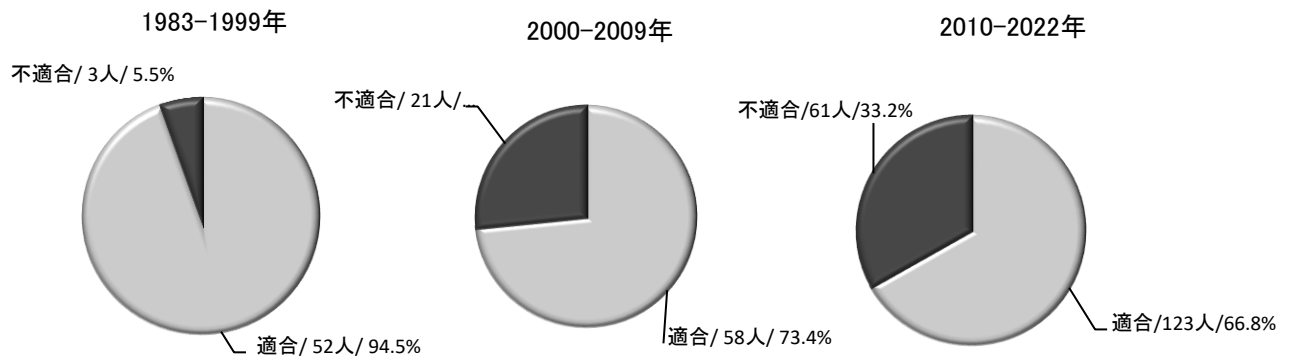
31-1 兵庫医科大学病院の年次別移植件数



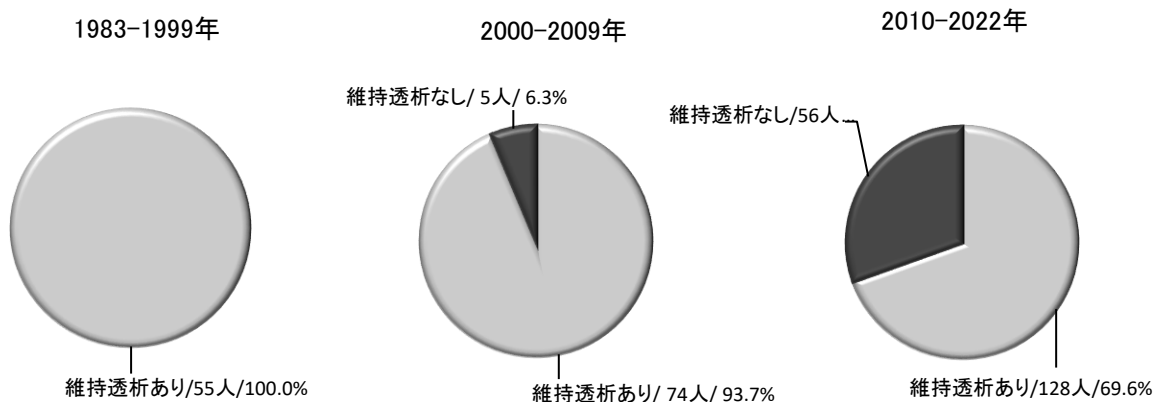
31-2 生体腎移植ドナーの変化



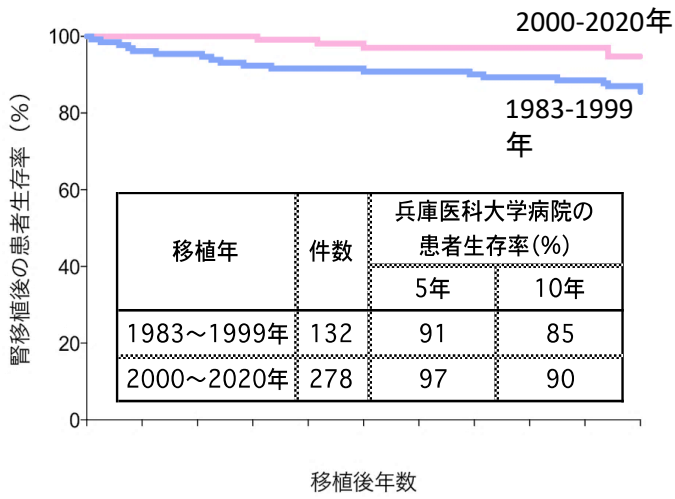
31-3 血液型不適合腎移植の増加



31-4 兵庫医科大学病院における先行的腎移植の割合

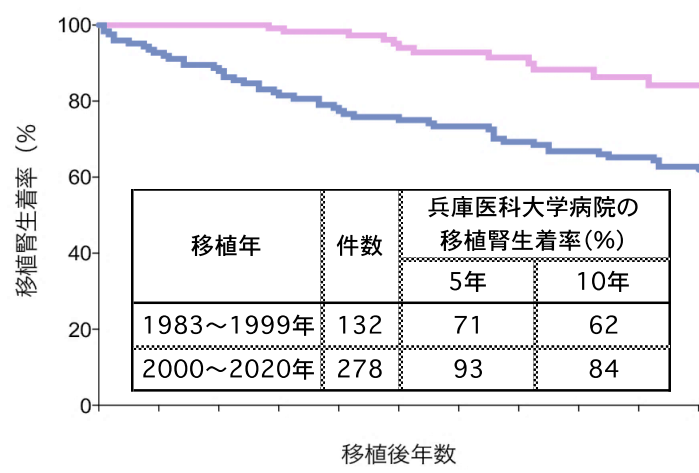


31-5 腎移植後の患者生存率



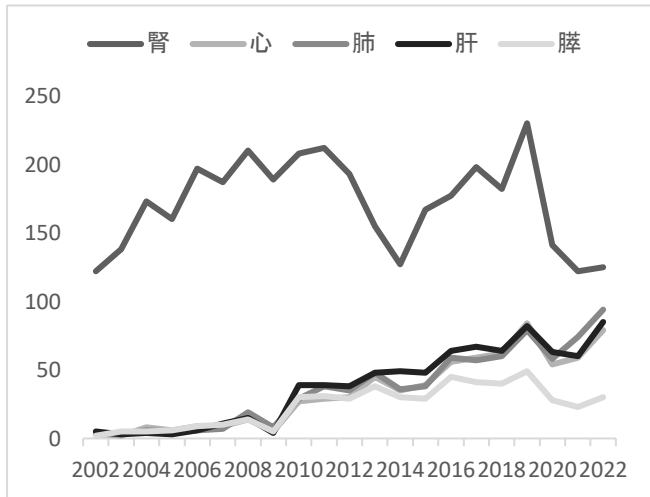
- ① 腎移植後の患者生存率は10年で90%と良好である。
- ② 初期（1983年-1999年）の成績でも10年で85%であり、腎移植で生命予後が改善している。
- ③ 死亡例は初期に重症感染症が多く、最近では心臓病・悪性腫瘍が多くなっている。

31-6 腎移植後の移植腎生着率



- ① 腎移植後の移植生着率は5年で93%、10年で84%と良好である。
- ② 免疫抑制療法の進歩にともない、初期（1983年-1999年）の成績よりも10年生着率は20%以上向上している。
- ③ 20年以上生着している患者さんは現在47名で、20名の患者さんが30年以上生着している。

31-7 日本の臓器移植件数の推移（生体移植を除く）



31-8 日本の腎移植件数の推移

